



森のなかま

2020年 1月号

NO. 141 (継続286号)

NPO法人かながわ森林インストラクターの会 <http://www.forest-kanagawa.jp> 発行人 久保 重明
〒243-0018 厚木市中町2丁目13番14号・サンシャインビル6階604号 TEL046-297-0301・Fax046-297-0302

新年明けましておめでとうございます



理事長 久保重明

皆さまには明るいよいお正月をお迎えのこととっております。

昨年は多くの台風にみまわれ、中でも9月9日に千葉県に上陸した台風15号は強い風で住宅屋根を飛ばし、大停電をもたらし、千葉県特産の山武杉(スギ非赤枯性溝腐病が蔓延していたという)を多くなぎ倒しました。また10月13日に伊豆半島に上陸した台風19号は東京~栃木~宮城~岩手の13都県に大水害をもたらし、多くの家屋や人命を失いました。

さて我々のネットワーク活動では特に台風19号の影響大きく、昨年活動予定の99件で15件が荒れた雨天や道路決壊で中止、学校関係では27件中1件が中止となりました。また県民参加の森林づくりは19件実施し1件が中止でした。中止になったネットワーク活動の中でやどりきの活動が多く7件あり、さらにやどりきの案内業務については道路決壊とその修復で10月、11月の案内業務は中止としました。しかしこれら最近にないあめ風の強い台風でしたが、何とか活動を行えたことは皆様のご努力によるものと深く感謝申し上げます。

昨年は11月30日に16期生の閉講式を終え、新たに33名が会に加わり、総勢は311名となりました。閉講式では会の活動や組織の説明に対して非常に積極的な質問があり、意気込みを感じました。会は頻繁にブラッシュアップや研修会を開催しており、積極的に参加し技術と経験を積み一緒に活動していきましょう。

明るい話題としては、昨年2月1日に県西合同庁舎において県森林再生課の呼びかけで「森林環境譲与税に係る経過措置について」の市町村の担当者への説明会が開催されました。その会の最後に当会も含め4団体が各団体の技術や経験などの説明を行いました。すぐに活動に繋がるわけではありませんが、市町村が森林環境譲与税の使い道の検討する際に役立つ材料になればと考えております。

会の新しい動きとしては、昨年6月の総会において認定NPOの取得に向けて動くことが承認されました。その後準備を進め、9月に審査を受けるため県NPO協働推進課に審査資料を提出致しました。同時に会としては認定NPOとしての動きに対応できるシステムを整えるために委員会を設け検討を始めました。この機に会もよりよい方向に大きく変貌して行きたいと考えております。

<かながわトラストみどり財団主催>

第3回 森林インストラクター ブラッシュアップ研修
「安全な間伐作業の方法について(実習)」

日時：令和元年12月8日(日) 8:30~16:00 曇り時々晴

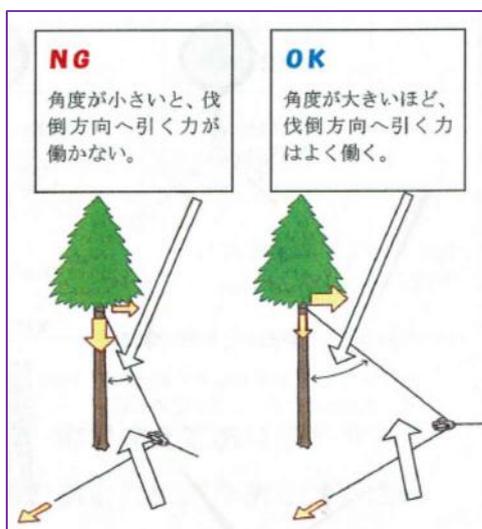
場所：真鶴 県行造林(真鶴町 岩)

財団：三枝様 内田様

講師：森林インストラクター森林部会 4名

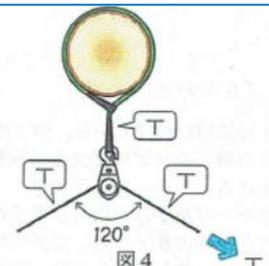
研修生：21名

研修の目的：間伐作業ロープ設置作業において、伐倒木と滑車木との距離が短いケース、またはロープを引っ張る位置が滑車木と近いケースが見られます。受け口、追い口作業などのノコギリの使い方だけでなく、ロープ設置作業の基本を習得して安全で安心感のあるロープ設置作業技術を習得することを目的とします。(当日のレジメより)



4) ロープの折り返し角度と負荷の関係①

ロープの折り返し角度は、 120° が理想的、ロープとスリングにかかる力が均等となり、スリングへの荷重が小さくできる。



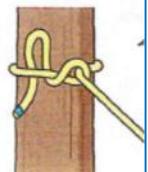
6) ロープ端末は引き解け結び

結び・ほどきを頻繁に繰り返す時や、仮止めにつかう。①と②の2通りの方法がある。

▼結び方①



▼結び方②



参加者の感想

<14期 小林 真理恵>

真鶴県行造林は想定外に平坦な場所もあり、初心者の研修に相応しい場所でした。

私の班では経験の少ない方を対象にまずはアドバイスなしの状態で一連の作業を行い、その後、一連の流れの中で気が付いた点、注意点を拾い上げました。

選木の方法や滑車をかける位置、ロープの結び方を重点的に話し合い、当日、自分がリーダーになった時のように行動することで、作業中は一つ一つの行動を必ず声に出し、周囲に現状を伝える大切さを学びました。

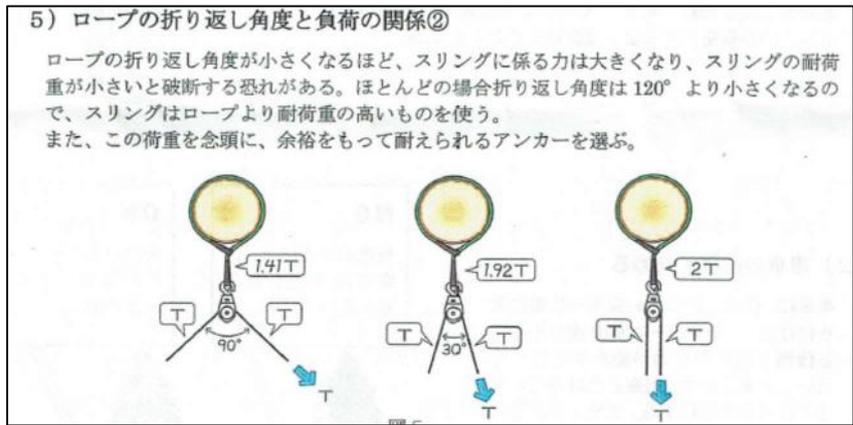
選木の際には選んだ時点で、切り倒す方向、ロープを引く方向、逃げる方向を確認し、実際に木の前に立ち、その場でチョークで切り口、受け口の位置を確認することが合理的だということを学びました。チョークがない場合はノコギリで位置を付けることも出来、持っている道具を活用することも教えて頂きました。

滑車をつける位置については木が倒れる時の状況を想定し、道具を壊さないよう、なるべく上の方へつけるのが良いというアドバイスを頂きました。

ロープについては簡単に結べ、簡単に外せることを考え、木の後ろに回せばテンションがかかり、きつく結べることを学びました。

ベテランの方々の有益な情報を得、安全で安心感のあるロープ設置作業技術を習得することが出来き、とても有意義な一日となりました。

今後も更なるブラッシュアップを目指して行きたいと思います。



参加者の感想

<15期 好泉 正隆>

冷たい雨の前日と異なり、気温は低いものときどき陽がさす作業日和だった。参加者は21名、前日に予定されていた県民参加の除伐が順延された影響で、予定されたより少なかったが、全員やる気満々と見受けられた。

研修テーマは、学習の一環として参加する小学生の指導方法。森林の役割、間伐の必要性の説明のしかたについて指導者の経験に基づいた話の後、選木、ロープ掛け、受け口、追い口、ロープ引き、枝払い、玉切りの段階ごとに、安全確保のため伝えるべき注意事項、参加者にやってもらうところ、インストラクターが手助けするところを確認しながら進めた。ロープを引くとき、子供は前に出がちになるので先頭の位置と足元に注意など、経験に基づいた話が聞け、たいへん勉強になった。個人としては、マニュアルに基づいて原則どおりに作業を進めることの大切さを再認識したこと、現場ごとに異なる条件のもとで応変することを体験できたこと、図らずも掛り木が起き、ツル切を実体験できわずかながらも自信を得ることができ、今後の糧にしたい。

残念なことは、参加者の多くが研修を受ける必要があるのかと思われる熟練者で、未熟な者は私を含む数名だったこと。ご都合もあろうが、間伐の体験の少ない方に参加してもらいたいと思う。というわけで、熱心な方が多いという評価が高い16期の方々、期待しています。



<写真提供 11期 吉田 郁夫>

研修参加メンバー（県民参加の森づくり予備日作業と重なり申込26名→21名の参加となった）

講師 L松永 廣^⑪ 松石 藤夫^⑬ 木村 勇^⑭ 牧石 稔^⑭

氏名	期	氏名	期	氏名	期	氏名	期
辻村 寿	9	水口 俊則	9	内野 ミドリ	9	水津 敏	9
大澤 斗志郎	10	真貝 勝	11	上宮田 幸恵	11	吉田 郁夫	11
藪田 栄哉	13	古舘 信生	13	前田 弘美	13	宇田川 祐美恵	13
鈴木 淳	14	水野 安則	14	國弘 明子	14	小林 真理恵	14
伊藤 健二	14	妙泉 正隆	15	石井 裕	15	石垣 桃栄	15
飛田 尚弥	15						

活動短信

今回の掲載はR1年10月7日～10月29日分です。
寄稿頂いた中には、紙面都合や寄稿タイミングで次号以降の掲載になるものもあります。

1月(旧暦十二月)の二十四節気

小寒 1/5頃 大寒 1/20頃
この日から寒の入りです 一年で最も寒くなるころ

活動短信への投稿概略フォーマットと略語の説明
ページレイアウトは気にせずベタ書きで結構です。
(できればWord、メール直筆でもOK。Excelはできるだけ避けてください。改行等の処理に手間を要しますので写真もあれば1枚添付ください。

◆ 活動団体・活動名 等

日 日付(できれば時間と天気も)
場 場所(例:相模原市緑区 長竹承継分収林)
参 参加者 人数
県 神奈川県 環境農政局 緑政部
水源環境保全課 水源の森林推進グループ
財(公財)かながわトラストみどり財団、看 看護師
スタッフ 例 小田原市森林組合XX様
例 川崎市公園緑地協会・XX様
イ インストラクター (○数字:期) 研:研修枠
以下の本文を概ね400字前後を目安として執筆ください
リーダーは責任を持って執筆者の選択と執筆後のチェックをお願いします。(執筆者もお忘れなく!!)
活動終了後の速やかな投稿をお願いいたします。

◆ 大和市立西鶴間小学校

総合的な学習時間(環境学習:森林) 講話

日 令和元年10月7日(月)10:45～11:30、晴れ
場 大和市立西鶴間小学校 視聴覚室
参 生徒131名(5年生4クラス)、教師 北島先生等 4名
イ 松本①

10/5に南足柄市の風切り水源林で学校活動用の下見&準備で区割り中に年甲斐もなく山を駆け上がり、肉離れを起こしてしまい、今回講話する学校(大和市西鶴間)まで自宅(横浜市瀬谷)から自転車でいくつもりで下見もしてきたが、歩くのは問題ありで恐る恐る自転車に乗ったら大丈夫だったのでヘルメットを被り学校に行った。

事前打合わせは電話のみで行い、当日本番とした。授業時間は全45分。インフラ準備遅れで5分の遅れとなったが休み時間の5分を頂戴した。先生から紹介/自己紹介等1分、講話40分、質疑応答4分の予定で、パワーポイントで作成してあるアプリケーション(CD)を持参し(PCとスクリーンプロジェクターで)プレゼンテーションを行った。

最初に、簡単に地球環境について(1967年と2017年の川崎の写真を見せ、汚した事⇒綺麗にした事。42年前のスモッグ時と現在のカラー写真を見せ、努力し綺麗にしたが、当時なかった温暖化の話に続けた。地球の歴史と産業革命から大きく地球を汚した事。その中から温暖化⇒炭酸ガス⇒地球温暖化⇒炭酸ガスを減らす⇒森林や植物が炭酸ガスを吸収と説明し⇒次の本題の森林についてのお話引きこむ。

本題の森林の働きについては①森林の役割、②日本の森林、③健全な森林を作る、④森林の危機、⑤森林を守る取り組み、⑥かながわの水源(水源林)について。

最後にクイズ(神奈川県の木、花は何?)と新国立競技場の話(木をたくさん使っている)、事例では近くの泉の森や引地川、境川を入れた。(水源等ではないが)

5年生で森林の授業はやっており、生徒達は基礎知識があり、講話内容の理解をしているようであった。



今回は先生も生徒も自然への理解を持とうとする姿がととても見えて、来年以降に間伐実践参加に期待を抱かせる生徒達であった。(記 松本 保 ①)

◆ 横浜市立下野庭小学校

水源を守るための人々の努力を知ろう 間伐体験

日 事前授業 令和元年10月9日(水)13:45～14:25 曇
間伐本番 令和元年10月17日(木)10:00～14:45 曇
(最後の15分小雨)

場 事前授業 横浜市立下野庭小学校
間伐本番 相模原市緑区 長竹承継分収林
参 事前授業 小学4年生92名 教師等3名
間伐本番 小学4年生89名 校長先生教師等8名
財 間伐本番 内田様
イ 事前授業 松本①
間伐本番 L松本①、柏倉④、佐藤⑤、小野⑦、小沢⑨、松山⑩、星野⑬、木村⑭、小松⑭、牧石⑭

○事前授業（10/17の森林の間伐体験の為に）

13時25分に学校へ着き、三森担当教師と授業を行う視聴覚教室へ入りPC等のインフラのチェック、持参パワーポイントソフトCDを立ち上げスクリーンプロジェクターで表示し、生徒の入室を待つ。自己紹介に続いて当日の授業の進め方を説明して授業に入る。（授業13:45～14:25）

①森林の役割を知ろう②日本の森林③健全な森林をつくる仕事④森林の危機⑤森林を守る取り組み⑥水源の森林（もり）について⑦間伐について

（概略のみで詳細説明は当日に各班のインストラクターよりありますと生徒に伝えた）

ただし、間伐作業は力を合わせてやらなければ危険だという事は力を入れて説明をした。

○間伐本番

10/12の超大型台風19号の被害が心配であったが、10/15の下見で長竹はほとんど影響なしと判断し、実行に至った。風倒木は15号台風でもあったがさらに4～5本は増えていた。

一本経路に掛かっていたので、安全を考慮し作業区分（1～11）を13まで作り、9班で作業区分5から13を使用した。

9:20 愛川ふれあいの村にインストラクター集合、ミーティング

10:10 生徒到着（バス2台）、トイレ（芝広場と集会棟2か所）／服装等準備、始まりの会

10:45～11:00 村～長竹 バス移動（インストも同乗）

11:00～11:15 バス停から移動、道具等装着、作業サイトに

11:15～12:30 間伐作業開始 伐倒までは各班完了、早い班は枝打ち、玉切まで完了

12:30～13:15 昼食、森の話の雑談等

13:15～14:10 玉切／枝打ち／コースター作り

14:10～14:15 班毎にお別れ会——（小雨が降り始めた）

14:15～14:30 下山、道具の手入れ、道具の確認後 ⇒ バス乗車（インストも同乗）

14:45 愛川ふれあいの村到着 生徒とは終了

14:45～15:00 インストラクター 振り返り、反省会

時間配分、生徒の行動ともとてもうまくいった。4年生にしてはノコギリの使い方も上手であった。聞くと地域（野庭）のボランティアで角材を



切った事があるとの事。休んだ生徒や先生への土産コースターも作っていた思いやりのある子たちでした。（記 松本 保 ⑪）

かながわしずくちゃん Facebook は下記URLで見ることができます。



<https://www.facebook.com/kanagawa.sizuku>

◆ 横浜市立能見台南小学校

足柄宿泊体験学習

日 令和元年10月19日（土）9:00～13:30 曇り

場 足柄ふれあいの村

参 120名（大人:9名、子供:111名）

イ L 西出⑫、柏倉④、佐藤⑤、滝澤⑤、小野⑦、山崎⑦、有坂⑧、久保⑧、松山⑩、山口⑪、吉田⑪、松本⑪、松石⑬ 計13名

天気予報が良くないために、前日に風切水源林の間伐中止を決定し、雨天バージョンのクラフト（マイ箸づくり）と森林講話に変更となりました。

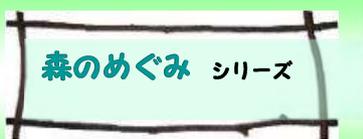
9時過ぎから始めの会を行って各班のインストラクターを紹介して、早速、班毎に別れてマイ箸づくりが始まりました。最初にインストラクターが小型ナイフを使って材料を削って見せるのですが、上手な子もいる一方で、多くの子供達は日頃使ったことのないナイフに悪戦苦闘です。それでも、時間がたつにつれて、箸らしい形が出来上がり、2本目に取り掛かりました。削り終えた箸はサンドペーパーを掛けて完成です。子供達は、苦勞して作ったお箸を見せ合いながら、全員怪我もなくマイ箸作りを終えました。



マイ箸づくりの後は、班毎に30分の森林講話を行いました。資料を使って、インストラクターが森林の働き、森林の現状、森林の整備などについて話をすると、子供達は身を乗り出すようにして、熱心に話を聞いていました。終わりの会では、子供達が森林講話に関する感想を活発に述べていました。間伐が出来なくて残念でしたが、子供達にとって有意義な時間が過ごせたと思います。

(記 西出 健一 ⑫)

森のめぐみの掲載は、今月号はありません。次掲載はR2年2月号です。



◆ 神奈川県立足柄ふれあいの村

「フォレスターキッズキャンプ②」

しずくちゃんと 森の仲間たち

日	令和元年10月19日(土)8:30~17:00、曇り
場	神奈川県立足柄ふれあいの村
参	小学生22名(男16名、女6名)
スタッフ	足柄ふれあいの村3名、ボランティア3名
イ	L:宮下⑩、真貝⑪、碓井⑫、星野⑬

前日まで降り続いた雨も朝には回復。予定通りフォレスターキッズキャンプを開催。小学1年~3年の参加者が親に引率され、足柄ふれあいの村に到着。オリエンテーションの後アイスブレイクでゲームを始めると、だんだんと仲間意識が芽生えてきた。

午後からは森での活動。第1ポイントは森の中の沢筋。ここでは、水の音に注目。森から沢に流れ出る水の行方や家の飲み水がどこから来るのかをみんなで話し合った。

第2ポイントでは、水源環境保全・再生のイメージキャラクターである水の妖精「かながわしずくちゃん」が登場。子どもたちは大騒ぎである。しずくちゃんに、誕生日、生まれたところ、性別、得意なこと、仕事などを皆で聞いてみた。そのあと、「しずくちゃんと森の仲間たち」の紙芝居を始めた。しずくちゃんは暗い森が嫌い、どうしたら明るい森になり、森の木を助けることができるのかの話に聞き入っていた。明るくするためには、枝を切り払ったり、間木を切ったりすることが大事で



あることがわかった。

第3ポイントでは間伐の見学。受け口、追い口を作る時、子供達から「頑張っ」との声に励まされた。かかり木にならずズドンと倒れた時には、子どもたちの大歓声が上がった。倒す木の高さを予測し、伐採した後木の長さを測定。年輪の観察も行った。

第4ポイントでは、丸太切り体験。ここでは子どもたちが親に送るメッセージ葉書の素材を作った。

子どもたちはいずれのプログラムにも熱心に取り組み、事故もなくすべてのプログラムを終了。子どもたちの感想に、森の中で木が倒れるのが見れてすごかった、木を切るのは大変だったけど面白かったなどがあった。また、間伐のイラストを描いた子どももいたようである。今回の体験から、森は水のふるさとである、明るい森にするにはお手入れが大切であることへの理解を深めてくれればうれしい限りである。(記 宮下 修一 ⑩)

◆ 横浜市立北綱島小学校 三島体験学習

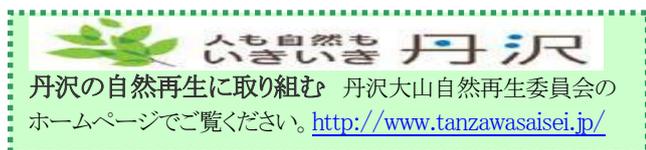
林業(間伐)体験

日	令和元年10月24日(木) 9:50~13:30 曇り
場	21世紀の森、風切水源林
参	110名(大人:10名、子供:100名)
財	内田様
イ	L 西出⑫、佐藤⑤、小野⑦、斎藤⑧、小沢⑨、吉田⑪、松永⑪、星野⑬、松石⑬、牧石⑭ 計10名

厚い雲が空を覆って天候が気になりましたが、幸い降雨はなく、予定通り、間伐体験を行う事ができました。

バスで21世紀の森に到着した子供達と始めの会を行った後、インストラクターもバス同乗して間伐現場の近くの広場に移動しました。そこでヘルメットを装着し道具を持って、現場に向かいました。歩いて15分程のヒノキ林は高さ5m程の小学生向きの低木です。森林の役割、間伐の意義などの講話の後、手順に従って、倒す木を選び、倒す方向を決めて、ロープを掛け、順番に大鋸で受け口、追い口を入れます。うまく鋸を使える子、なかなかうまくいかない子と様々ですが、切り口が完成したら、みんなでロープを引きます。木が音を立てて倒れると、拍手や歓声上がり、共同作業の連帯感が一気に盛り上がりました。その後、各自の小さい鋸で倒した木の枝を払って、玉切りをして、作業を終えました。広場に戻って班毎に昼食を取りましたが、貴重な体験で会話が弾みました。

(記 西出 健一 ⑫)



◆ 県民参加の森づくり (間伐)

日 令和元年10月26日(土) 8:40~13:30 晴

場 真鶴町岩(真鶴町県行造林)

参 53名(男性43名 女性10名)

財 大木様、古舘様

看 佃様

イ L 水津⑨ 辻村⑨ 水野⑭ 湯浅⑪ 鈴木③ 鈴木⑭

上宮田⑪ 岩田⑭ 松石⑬ 内野⑨ 木村⑭ 石川⑫

小野⑦ 牧石⑭ 北村⑭ 稲辺⑤

研 波多野⑨ 森⑮

安パト 松永⑪ 宮下⑩

県民参加の森づくりとしては、今年初めての間伐だ。参加者らは5班編成で、マイクロバス4台に分乗し、小1時間かけて真鶴町の山林へ。林道を経てヒノキ30年生の林に入る。現場の標高は400から450メートル。前日のまとまった雨で林地は濡れが残る。樹冠が密集し、やや薄暗い。傾斜はきつくなき、間伐作業にはうってつけだ。ただヒノキは固い。交代しながら受け口、追い口を作り、ロープを引く。枝払い、玉切りと作業を進める。

それにしても今年の台風被害は厳しかった。広い地域で何本も大河川が氾濫し、土砂崩れなどで多くの人命が失われた。神奈川県はダムの整備が進んでいるので、被害が比較的抑えられたという話も聞いた。緑のダムと言われる山林。人命にかかわる山林の整備と、河川管理の重要性、緊急性は言うまでもない。

小田原駅前広場のインストラクター反省会では「楽しかった」など参加者の声が報告された。ヒヤリハットはなかったが、安全パトロール委員からは①ベテランに対しても安全の原則を徹底指導する②倒す際の合図、笛吹きを忘れずに、と注意を受けた。

最近の県民参加の森づくりはベテランの他に新しい人が増えているという声がある。初めて間伐に参加した高校男子生は「この経験を生かして、大学で森林の勉強をしたい」と話していた。

(記 湯浅 鉄男⑩)



◆ 横浜市立西富岡小学校

「マイ箸作り」

日 令和元年10月29日(火)10:00~12:00 雨

場 足柄ふれあいの村

参 小学5年生86名 大人9名

財 内田様

イ L 柏倉④ 佐藤⑤ 有坂⑧ 松山⑩ 中村⑪

松本⑪ 西出⑫ 藺田⑬ 牧石⑭ 竹内⑮

5年生86名が楽しみにしていた一泊二日の林業体験。夜来の雨が降り止まず、6時に先生からリーダーに間伐体験断念の連絡を頂きました。子供たちもさぞかし残念だと思いますが、そこはさっと切り替え、宿泊した足柄ふれあいの村工作棟で、「マイ箸づくり」の体験をすることになりました。

インストラクター10名も合流し、元気な挨拶を交わします。早速10班に編成し、刃物を扱うので十分な距離を取って棟内に分かれまゝ。道具は小刀と紙ヤスリ。また、みどり財団が、各班1本のダイヤモンドシャープナーを用意し、これが途中大変役に立ちました。箸の材料はサクラ。こちらは子供には堅すぎ、節や逆目で苦勞していました。終了後にはインストラクターの多くから、部材再検討の声が出ました。

学校側から小刀の未経験者が多いとの情報があったので、事前に聞くと、多くの子が触ったこともないとのことでした。まず安全な切り方から教えます。みんな聞き分けも良く集中力も十分。1時間40分があつという間に過ぎ、箸もそれらしく見えるまで出来ました。中には紙ヤスリできれいに丸みをつけて、完成品近くまで辿り着いた子もいます。「家で仕上げるんだ」という元気な声も聞こえ、どうやら



楽しんだようでした。本当は森で間伐をやってみたかった、という本音を漏らす子もいたので、家族と県民参加に来てね、と声

をかけて分かります。雨はまだ勢いよく降っていました。

(記 竹内 明彦⑮)

16 期生 33 名を迎えました

<総務部長 星野 澄佳>

11/30 閉校式で 2 年間の研修を終えられた 16 期生 33 名全員を森林インストラクターの会に新たなメンバーとして迎え入れました。

閉校式では、会の組織や、会員の役割、心構えなどをお話ししました。

2/8 には、各部会、事業部会の説明会が予定されています。

16 期生の皆様は、わからないことも多いかと思いますが、まずは活動に参加することが大切です。皆様 一緒に頑張りましょう。

やどりき水源林ミニガイド

やどりき水源林ニュース

<http://www.forest-kanagawa.jp/4field.html#field02>

冬季は、休刊です。

「森の案内人」情報

案内人は、2 月までお休みです。

●問合せ:

(公財)かながわトラストみどり財団

TEL: 045-412-2255

FAX: 045-412-2300

●ホームページ: <http://www.ktm.or.jp>

E-mail: midori@ktm.or.jp

◇ 森のなかま原稿募集 ◇

会員読者の皆様から広く募集しています。

<広報全般についてのお問い合わせ>

黒川 敏史

Mail:

kurokawa.family@aa.cyberhome.ne.jp

Tel: 080-5477-2206

<電子配信会員向け担当> 笠原

Mail: happy_kumakuma711@icloud.com

<電子配信企業等パートナー様向け担当>

柳澤 Mail: cherril@gk9.sor-net.ne.jp

<メール・手書き原稿送り先>

【本誌】黒川 敏史

Fax: 0467-46-8650

電話連絡先: 080-5477-2206

Mail:

kurokawa.family@aa.cyberhome.ne.jp

【別冊】阿藤 寿孝

Tel: 045-433-4413

Mail: hisa-ato2@22.netyou.jp

原稿は随時受け付けています。

編集後記

★1 年を振り返って

私事ですが、10 月に父を亡くしました。父は自分の望みの通り、自分の家の自分の部屋で好きなラジオを聴きながら逝ってしまいました。家族にとって、難しい選択でしたが、多くの人の助けもあって、乗り切ることができました。今は、父からの人生勉強と言うプレゼントかなあと考えています。(笠原)

★最近年初になると「ゆく河の流れは絶えずして・・・」と月日の経つ早さを感じている。30年、50年、百年先の地球と人類のことを杞憂している。また、日本と我が孫たちの未来も心配している。百年前と比べると現在は確実に進歩しているけど・・・(吉田)

★「令和元年12月にこれまで経験したことがないような背中激痛に襲われ救急車を初体験！幸い大事に至らず？周りの方にはご迷惑とご心配をおかけしてしまいましたm(_)_m。今年は古希、健康生活が目標です。」(阿藤)

★子年は自分の年です。(何回目かな)海洋のマイクロプラスチックは対策はと小学生に疑問をぶついたら木でしようと答えが返ってきました。偏差値重視からみたら100点の答えでしょう。でも、代替えを大幅にすると山は瞬間にハゲ山になってしまいます。

どうすればいいのか？生活スタイル変える事は出来るのでしょうか。(松本)

★昨年正月は、年末から調子に乗って農業、緑地整理、森林活動を、休み無く行っていたら、股関節炎を発症してしまいました。一ヶ月間は起き上がるのも苦痛で、各方面に迷惑を掛けてしまいました。もう無理の利く年ではないと反省(泣)。今年はさらに活動を整理し、息の長いボランティアを目指したいと思っています。(竹内)

★昨年は思いがけず、理事・広報部長を拝命し、今は、本誌の編集の締切りに追われてバタバタしています。今年は、もっと余裕をもって、こなしていかないと。皆さまの投稿が頼りです。(黒川)

イベント情報 & ご案内

森のなかまは過去号もご覧になれます。

(ホームページ)

<http://www.forest-kanagawa.jp/3kiroku.html#kiroku01>

(HP 担当: 井出恒夫)

年間通読のお申し込み

「森のなかま」年間通読をご希望の方は、郵便局備付けの郵便振替を利用してお申し込み下さい。郵便振替口座 00230-0-2454 **かながわ森林インストラクターの会** 宛まで2000円をお振込み下さい。振替用紙には、必ず、住所、氏名を明記して下さい。振替用紙到着の翌月号から12回/1年間お届け致します。

編集人: 黒川 敏史

広報部: 吉田郁夫 松本 保 笠原かずみ 加藤優美 阿藤壽孝
竹内明彦、柳澤千恵美

支援: 伊藤恭造 大原正志 江頭淑子